

「書」にみる笑老描詩？！

桜井先生のご厚意による、月2回 不定期の書道教室が開催されています。

幼少のころ以来、何十年ぶりに筆を持つ。硯の墨に筆をつける瞬間。純白の半紙に向かい、目をおとした瞬間。筆をおろす瞬間。墨が下りた瞬間、これまで歩んできた自分史から、今まさに今の自分をはっきりと感じていた。半紙の上に筆を滑らせる。上手い、下手ではない、一生懸命に生きた自分が、純白の半紙に自分の足跡を墨にして。仕上がった今の自分という「書」。すべての「書」に味がある。これほど素晴らしい「書」がどこにあらう。

これぞ、まさしく笑老描詩

はちや語録「笑涯現役」より

* 生老病死(仏教語で四苦八苦の中の四苦)

